

新たな技術の 再構築に向けて

Photo
REPORT
フォトリポート



「下水道展'07東京」に出展

日本下水道協会主催の「下水道展'07東京」が、7月24～27日の4日間にわたって東京ビッグサイトで開催されました。下水道機構では、日頃の研究成果のPRとともに、設立からこれまでの15年間に行った主な研究成果と、15年先を見据えた『下水道機構ビジョン』のパネルによる紹介を行いました。今年の下水道展は、約8万5,000人の入場者が来訪し、下水道機構ブースにも多数の方々にお越しいただきました。



■今年も多くの方々にお越しいただき、下水道機構の研究内容をPRできました。また、入口のコンピューターグラフィックは子供達にも大人気でした



■栗原研究所長が東京都の菅原副知事、前田下水道局長に新潟県中越沖地震の調査状況を説明

■下水道機構ビジョンの説明パネルに興味を示す入場者も



技術委員会を開催



平成19年度第1回技術委員会が8月2日に本機構8階特別会議室で開催され、新世代下水道支援事業制度で行われている共同研究2テーマと、民間との共同研究など13テーマについて審議が行われました。

「企業からの技術提案」で講演会

今年度から下水道機構が発行を始めた「下水道事業の手引」をテキストにして「企業からの下水道新技術提案（下水道事業の手引の活用）」講演会を8月30日に本機構8階会議室で開催しました。講演会では、本機構の栗原秀人研究所長が発刊の目的とこれまでの経緯を、本田康秀国土交通省下水道事業課課長補佐が、手引の活用のポイントを集めた100名あまりの民間企業関係者に説明しました。



■手引活用のポイントについて説明する本田課長補佐

新技術研究成果証明書を交付



調査研究が完了した民間企業との共同研究「合流式下水道改善対策における繊維ろ過技術に関する研究」と「新高効率型遠心脱水機に関する研究」の2テーマ・合計11社に対し8月10日に新技術研究成果証明書を交付しました。（インフォメーションのコーナーに詳細を載せました。）

新技術現場研修会を実施

第44回（平成19年度第1回）新技術現場研修会を7月5日に東京都大田区の大森蒲田共同溝工事現場（東京国道事務所）で実施しました。今回の研修会は、下水道機構と民間企業とが共同で開発した「省面積立坑システム」が採用されている現場の見学と概要説明で、50名の技術者が参加しました。

